

「黒茶」から「紅茶」へ

著者	内田 慶市
雑誌名	関西大学東西学術研究所紀要
巻	31
ページ	A1-A19
発行年	1998-03-31
その他のタイトル	From "Black" Tea (黒茶) to "Crimson" Tea (紅茶)
URL	http://hdl.handle.net/10112/16236

「黒茶」から「紅茶」へ

内 田 慶 市

1. 素朴な疑問——なぜ「Black tea」が「紅茶」なのか？

ことの始まりは至って単純である。英語の「Black」に対応する言葉は、日本語でも中国語でも「黒」である。とすれば、「Black tea」に対する訳語は当然「黒茶」となるはずである。ところが、そうならないのである。

たとえば、矢沢1989では次のように述べている。

日本人や中国人はこのブラック・ティーのことを紅茶と呼び、黒茶とは言わない。(51p)
現在では中国語でも「紅茶」という言葉が広く一般的に用いられている。しかしながら、中国語の世界では確かに「黒茶」が存在した時代もあるのである。では、一体いつ頃、誰が、どのように「Black tea」を「黒茶」ではなく「紅茶」と表したのであろう。この些細な問題について考えてみることにする。

2. 茶の「西漸」

ヨーロッパ人の茶への興味は 16c の中頃に始まるようで（たとえばイタリア人ラムージオ『航海記集成』（1554）etc.），特にその薬効に注目されていた。

また、ヨーロッパへの最初の茶の伝播は、これまでの研究から、1610年オランダ東インド会社により、平戸からバンタム（ジャワ）を通じて日本の緑茶がもたらされたことも明らかにされている。その後、オランダからイギリス、欧州各国にと飲茶の習慣がひろがり、18c に入ると茶貿易の中心はイギリスに移る。

2. 1 イギリスでの紅茶の定着

角山1980によれば、イギリスに茶が入るのは1630年代中頃で、それはオランダを通じてであった。イギリス東インド会社の記録に中国茶の輸入が現れるのは1669年であり、最初は緑茶が中心で、18c を通じて紅茶の割合が増加するという。このことは、Chaudhuri1978 によっても明らかである。

また、《Chinese Repository》の Vol. IX (1840), Vol. XIV (1844), Vol. XV (1845) には、1836—1840, 1844. 6. 30—1845. 7. 1, 1845. 6. 30—1846. 7. 1 のそれぞれの期間におけるイギリスおよびアメリカへの茶の輸出量統計表が掲載されている。これによれば、イギリスにおいてはこの時期、紅茶の割合が緑茶を圧倒していること（3倍以上）が見てとれる。ただ、アメリカに関しては全く逆の統計が出ており、アメリカでは緑茶の割合が高く、両国の嗜好の違いとすることが出来るだろう。

* 《Chinese Repository (中国叢報)》は、1832年(1853年まで)に広東で創刊された新聞。Bridgman (裨治文), Gutzlaff (郭士立), Parker (派駕), Williams (衛三畏) などによる。

3. Tea の 語 系

茶の言葉の系譜は角山1980によれば大きく以下の二通りである。

- (1) 広東語の CH'A の系統……日本語の茶 (CHA), ポルトガル語, ヒンズー語, ペルシャ語の CHA, アラビア語, ロシア語の CHAI, トルコ語の CHAY
- (2) 福建語の TAY の系統……オランダ語の THEE, ドイツ語の TEE, 英語の TEA, フランス語の THÉ

これは陸路か海路かの伝播の区別によるもので、広東語系は陸路、福建語系は海路であり、陸路は海路よりも新しいと言われている。ポルトガルを例外として（つまりマカオからの輸入）、西欧諸国が福建語系統なのはオランダが廈門と直接貿易を始め、茶がオランダからヨーロッパに拡がったことによるという。

この考え方はほぼ肯定できるが、若干の問題もある。

一つは、福建語という場合、福州か廈門かという問題である。福州ならば [ta] であり、[te] ではない。廈門では [tsa] あるいは [te] となる。ここは厳密に廈門方言もしくは閩南語というべきであろう。

もう一点はロシア語などの CHAI の問題である。「茶」は音韻学的には、「假撰開口二等平声麻韻澄母」に属する漢字である。この「麻韻」つまり [a] の後ろに [i] の音が付くのは考えにくい。後述の Tea の訳語によく見られるように、「茶」と「茶葉」は本来は別々の意味であるが、ほぼ同義に使用される場合が多いのも事実である。とすれば、ロシア語の CHAI とは実は「茶葉」つまり Cha ye (広東語では Cha yip) を語源とすると考えた方が妥当ではないかと思われる。もちろん、そのことが広東語系統であることを否定することにはならないのは言うまでもないことである。

4. Black tea と Green tea

ヨーロッパでも最初は緑茶が主流であったが、次第に紅茶がその地位を逆転していったという事は前述の通りである。緑茶あるいは紅茶のみが輸入されている状況では、それに対応する言葉は「Tea」だけで十分であったはずである。しかし、両者が共に入ってくるようになれば、当然、「言語とは他と区別するためのもの」という荀子の言をまっまでもなく、それに見合う言葉が必要になってくる。そこでヨーロッパ人（イギリス人）は、この2つを、Green tea と Black tea と区別した。この区別がいつ頃から始まったのかは定かではないが、Chaudhuri1978の表では1721年からの統計にすでにその区別が現れている。ただ、1690年段階では東インド会社の茶の輸入量はごくわずかであるので、おそらくは1700年代に入ってからであろうと思われる。

さて、この Green tea と Black tea の違いであるが、これは後述の Robert Fortune の「製茶法」で明らかなように、元の葉は同じであるが、途中の調整方法の違いによるものである。

Green tea……摘採→殺青（鍋での加熱）→揉捻（液や湿り気をとる）→晒し（2, 3時間）→第二次殺青→選別・梱包（揉捻まではその日のうちに終わる必要あり）

Black tea……揉捻までは Green tea と同じであるが、その後、2, 3日外気的作用を受ける（つまり、ここで発酵させる）。なお、発酵を途中で止めたものが烏龍である。

5. 紅茶の種類とその名称

本稿では「紅茶」という言葉がいつ頃、どのように作られ、いつ頃から中国語の世界に定着していったかを探ることに主眼があるが、「紅茶」にはどのような種類があり、そのような名称で呼ばれているかについても一応概観しておくこととする。

(1) ボウヒー Bohea 武彝茶（武夷茶）

もっとも値段が安く大衆向けの紅茶であり、輸入の大部分を占める。福建省武彝（武夷とも）山を産地とするところからこの名がある。色が濃い。

(2) カングー Congou (Congo と) 工夫茶

ボウヒーよりも上等で、東インド会社のイギリスにおける茶の販売量のうちで、1787年から1833年まで常にトップの座を占めたとされる。「工夫」というのは、「手間がかかる」という意味が込められる。色はボウヒーよりも明るく出る。

(3) スーチュン Souchong 小種

武彝岩茶の一種で、葉が長く、明るい琥珀色を呈す。値段はカングーの倍近い。

(4) ピーコー Pekoe (Pecco とも) 白毫

紅茶のなかの最良種、最高値のもの。若い春芽から作られ、その葉には柔らかい白いうぶ毛を残している。武彝の平地、水辺に産するものを、山間部の岩茶に対し、「洲茶」と呼ぶが、ピーコーはこの「洲茶」である。

東インド会社が中国から輸入した紅茶は以上の4種である。(緑茶は、シンロ、ハイソン、ピングが主要なものである)

6. 「黒茶」から「紅茶」へ

さて、本論の「紅茶」という言葉についてである。たとえば、『中国名茶志』(1982)では次のように述べている。

我が国で最初に輸出された茶は緑茶と武彝茶であり、1728年に至るまで「紅茶」の名は現れてこない。『崇安縣新志』の記載によれば、武彝のお茶は悠久の歴史を有し、康熙十九年(1680年)の頃に「武彝茶」と称されていたものは緑茶であり、康熙四十五年になって初めて「岩茶」(つまり烏龍茶)の名が出現し、康熙五十六年によりやく「岩茶」製法の梗概が略述されている。「紅茶」の名の出現は『崇安縣新志』の記載によると、遅く道光から咸豊年間(西暦1821—1861年)である。(16p)

この1728年という根拠は、威廉・ウクス《茶葉全書》の次の記載によっている。

1728年、英国記事文学家 Mary Delany……記述云：……有20—30先令之武夷茶，有12—30先令之緑茶(第四章)。(16p)

この原書、おそらくは Ukers, William H. の《The Romance of Tea. An Outline of Tea and Tea-Drinking through Sixteen Hundred Years》(New York, 1936)を未見であるため何とも言い難いところであるが、ただ、上の中国語訳が正しければ、「緑茶」に対して「武夷茶」が使われている。

また、『崇安縣新志』の記載というのは次のようなものである。

武夷茶，始於唐，盛於宋元，衰於明而復興於清，……康熙五年(1666)，中茶由荷蘭東印度公司輸入歐州，及康熙十九年(1680)，歐人已以茶爲常用之飲料，且以武夷茶爲中茶之總稱矣……

武夷茶共分兩大類，一爲紅茶，一爲青茶，然均非本山所産，本山所産爲岩茶，岩茶屬青茶之一種，然與普通青茶有別，其分類爲奇種，各種，小種，至於烏龍水仙，雖亦出於本山，然近代始由建甌移植，非原種也……

清初、本縣茶市在下梅村，道咸間，下梅廢而赤石興，紅茶，青茶向由山西客（俗謂之西客）至縣採辦，運赴關外銷售……

英吉利人云，武夷茶色紅如瑪瑙質之佳，……

つまり、「武夷茶」が中国茶の「総称」として使われたことがあること。「武夷茶」には「紅茶」と「青茶」の二種類があること。「岩茶」は「青茶」の一種であり、普通の「青茶」とは違い、「奇種」「名種」「小種」それに「烏龍」に分けられることなどが述べられている。

これまで、「紅茶」に関する研究は数多くあるが、「紅茶」という言葉の由来についての考察はこの『中国名茶志』の記載以外にほとんどなかったといってもよい。

ただ、最近になり、矢沢利彦氏の『グリーン・ティーとブラック・ティー』（汲古書院1997）の「はじめに」の中で「紅茶」という言葉に言及した部分がある。この本は、特に Robert Fortune（後述）の茶に関する一連の著作を中心に、茶の精製法や輸送ルートなどを追究した好著であるが、それによると、Fortune の書に「Hong-cha」と「Luk-cha」という言葉が出てくるといっているのである。

また、矢沢氏は「紅茶」と「Black tea」の含義を次のように説明している。

紅茶というのはあくまでも生産者側がつけた名で、自分たちの苦心して調製した茶を少しでも高く売りたいという気持ちがそこにひそんでいる。これに対するブラック・ティーはどちらかと言うと購入者がつけた名で、意地悪に言うとなるべく低価格で入手しようという底意がうかがえる（はじめに V）

今、この矢沢氏の考えに対する私見は暫時保留して、以下、各種文献に現れる「Black tea」に対する訳語をつぶさに検討していくこととする。

6. 1 まずは Robert Fortune (1847) である。該当する書のタイトルは以下のものである。

《Three Years' Wanderings in the Northern Provinces of China, Including a Visit to the Tea, Sillk, and Cotton countries: with an Account of the Agriculture and Horticulture of the Chinese, New Plants, etc.》

London, 1847

（三年間にわたる中国北方地区遍歴記。茶，絹，木棉産地の訪問を含む。中国人の農業，園芸，および新植物ほかの報告付き。）

この書の初版は1846年に公にされたものであるが、この初版はアッサム会社と東インド会社とによって買い占められたものらしく、いまではひじょうに入手し難い文献となっている（矢

沢1997 6p)という。

問題となる「Hong-cha」の記載を示す。

Up to this stage of the process all the leaves have been subjected to the same treatment. But the tea in this district is now divided into two classes, each of which is treated in a peculiar manner. They are called, in the language of the district, Luk-cha and Hong-cha. (215—216p)

この段階まではすべての葉は同じような処理を受ける。ただし、この地方では、ここで2つの種類に分けられて、それぞれが特殊な方法で処理される。それらはこの地方の言語でそれぞれ「Luk-cha (緑茶)」と「Hong-cha (紅茶)」と呼ばれている。

The Hong-cha, or our common black tea, is prepared rather differently. (217p)

紅茶、あるいは我々の普通にいう black tea はやや違った調製がされる。

Fortune は“Hong-cha”をこの地方、つまり福建の方言と言うが、これには問題が残る。この中国音の表記がどのシステム（恐らくは Medhurst あるいは Williams の表記法）に基づくのかがはっきりしないが、先にも述べたように、福建でも北部と南部では音が異なっているが、「茶」の声母に関しては同じく [t] (舌頭音, 舌尖前音) であり, [tʰ] や [tʰʰ] (舌上音, 舌葉音あるいは舌尖後音) ではない。また「紅」も、廈門では [hɔŋ] もあるが、別に [aŋ] もあり、北部では [xun] か [øyn] という、かなり奥よりの音である。“Hong-cha”つまり、[hun-tʰʰa] あるいは [xun-tʰʰa] と発音するのはむしろ広東であろう。同様に、「Luk-cha」も、廈門では [lɔk] あるいは [lɪk] であり、福州でも [lyʔ] であり、[luk] と読むのは広東音である。

すなわち、確かに“Hong-cha”つまり「紅茶」という言葉がこの頃 (Fortune がこの地を訪れた1843年頃) にはすでに存在したことは明らかではあるが、それは恐らくは広東語系統の言葉であり、武夷に買い付けに来た広東人の間で使用されていた言葉であると考えるのが妥当であろう。

では、1843年頃にすでに存在した「紅茶」ではあるが、その中国語の中における位置、すなわちその定着の仕方はどうであるかが、次の問題となってくる。これについて、以下、ヨーロッパ人の手になる英華辞書類での現れ方、同じく報刊類での現れ方、さらには「英語学習書」や中国人の手になる英華辞書類での現れ方について見ていくこととする。

6. 2 ヨーロッパ人の手になる英華辞書類における「Balck tea」の訳語

(1) Robert Morison (1815—1823)

《A Dictionary of the Chinese Language》

Bohea tea, 武彝茶 Woo-e cha. Woo-e, by Europeans called Bohea, is the name of a place in Fo-keen, from which black tea is chiefly brought.

Congo tea, 工夫茶 kung-foo cha, Kung-foo means work, perhaps the name is intended to express that the tea requires much work.

Tea, 茶; tea leaf 茶葉 cha ye……

Bohea tea, 武彝茶 Woo-e cha; named from the hills where the plants grow.

Green tea, 綠茶 luh cha; from 武源縣 Woo-yuen-heen, in 徽州 hwuy-chow.

Pekoe tea, 白毫 pih haou.

Pou-chong, 包種 paou chung.

Sou-chong, 小種 seaou chung; called also 小焙 seaou pei.

Congo, 工夫茶 kung foo cha

……………

(2) J. A. Goncalves (1831)

《洋漢合字彙 (Diccionario Portuguez-China)》

Macao 1831

CHA 茶。茶葉。山茗

—verde 松制茶—preto (Vui) 武彝茶。白毫。老君眉

—ordinario 大茶。皮茶

……………

—pau chom 包種

—sen chnm 小種

……………

(3) Williams (1844)

《英華韻府歷階 (An English and Chinese Vocabulary, in the Court Dialect)》 衛三

畏鑒定 香山書院梓行

Printed at the Office of the Chinese Repository, Macao, 1844

Bohea tea 武夷茶

Tea 茶葉 cha ye: 茗 ming……

Tea, Green 綠茶 lu cha; 松茶 sung cha

Tea, Black 黒茶 he cha; 大茶 ta cha; 彝茶 i cha

Pecco 白毫 pe hau; 君眉 kiun mei; 蓮子心 lien tsu sin
Bohea 武彝茶……

(4) W. H. Medhurst (1847)

《English and Chinese Dictionary》

Shanghae: Printed at the Mission Press

Tea 茶 ch'ha, 茶葉 ch'a ye, 茗 ming, 茗種 ming chung……

Petkoe tea 老君眉 laou keun mei, 白毫 pih haou

Bohea tea 武彝茶 woo e ch'ha

Congou tea 工夫茶 kung foo ch'ha, literally “work tea”, or tea on which some labour has been bestowed.

(5) Devan (1847)

《The Beginner's First Book in the Chinese Language (Canton Vernacular)》

HONGKONG Printed at the “China mail” Office, 1847

Tea 茶葉 Cha yip

—Black 黑茶 Hak cha

—Green 綠茶 Lok cha

(6) Lobsheid (1866)

《英華辭典 (English and Chinese Dictionary)》

Hong Kong

Black tea なし

Bohea tea, of sort of black tea, 武彝茶

Congo, Congou, tea, 工夫茶

Tea 茶 茶葉 茗 茗種

green 綠茶

(7) Edkins (1869)

《A Vocabulary of the Shanghai Dialect》

Shanghai Presbyterian Mission Press

Tea, 茶 dzo, (in leaf) 葉 dzo yih, (strong) 濃 nung dzo, ……(black tea) 紅 hung

dzo, (green) 綠 loh, (congou) 工夫 kung fu, (moning) 馬寧 mo niung, ……,(sou-

chong) 小種 siau tsung, (bohea) 武彝 vui, (pekoe) 白毫 bah hau……

(8) DooLittle (1872)

《英華萃林韻府 (A Vocabulary and Hand-Book of the Chinese Language Romanized in the Mandarin Dialect)》

By Rev. Justus Doolittle

Foochow 1872

Vol. 1 は英華辞典, Vol. II-Part II は用例集 (漢字 5 文字以上の clause, phrase, sentence), Vol. II-Part III は分類語彙辞典。

Vol. II の 480p までは福州で印刷, 481p からは上海で印刷される。

Vol. I-Part I

Tea, 茶 'cha, 茶葉 'cha yeh, 茗 ming,; green 緑茶 lu 'cha, ……

Black 黒茶 'hei 'cha, 大茶 ta 'cha, 彝茶 i 'cha; Oolong 烏龍 wu lung ……

Pekoe 白毫 pai 'hao, ……Bohea 武彝茶 wui 'cha, ……

Vol. II-Part III

LXXVII—TERMS CONCERNING TEA AND THE TEA BUSINESS III.—

The principal Green teas, with the Chinese characters employed by Compradores, Tea-men and Tea-boys to represent the sound of their English names.

Green tea, 緑茶 lu 'cha 忌連的……(632p)

IV.—Principal kinds of Teas, and the places where they are grown, and where they are offered in market to Foreign merchants.

- (1) 青茶 'ching 'cha, which includes 烏龍 wu lung; 寶種 pao chung; 上香 shang hsiang; 花香 'hua hsiang; 水仙 shui hsien; 岩茶 an 'cha;
- (2) 紅茶 'hung 'cha, which includes 工夫 kung fu; 小種 hsiao chung, 紅梅 'hung mei;
- (3) 緑茶 lu 'cha for which see the terms under section III above; and
- (4) 白毫 pai 'hao (633p)

ここでは、「紅茶」と「青茶」は両方とも、「Black tea」とされている。たとえば、以下の通り。

The best greater part of the Black teas 紅茶 'hung cha, as Congou and Souchong offered at Foochow for sale comes from the following places, ……

The Black teas, 青茶, as Oolong and Paochung, offered at Foochow are mostly from the following places……

Of the Black teas 紅茶 offered at Shanghai and Kiukiang, the best are from the

following places in Hupeh province……

The principal varieties of black tea, 紅茶, offered for sale at Canton and Macao are grown in the following places……

Both kinds of black teas, (紅茶 and 青茶) are offered at Amoy.

(9) F. W. Baller (1900)

《An Analytical Chinese-English Dictionary》

Shanghai China Inland Mission and American Presbyterian Mission Press

(Hong) 紅茶 black tea

緑茶はなし

(10) MacGillivray (1911)

《英華成語合璧字集 (A Mandarin-Romanized Dictionary of Chinese)》

Shanghai: Printed at the Presbyterian Mission Press

(実際は華英辞典)

hung-ch'a 紅茶 black tea

緑茶, 青茶なし

(11) Herbert A. Giles (1912)

《A Chinese-English Dictionary》

Second Edition, Shanghai, 1912

紅茶 black tea

緑茶 green tea

(12) K. Hemeling (1916)

《English-Chinese Dictionary of the Standard Chinese Spoken Language (官話) and Handbook for Translation》

Shanghai 1916

Congou tea 工夫茶葉 kung fu ch'a yeh, 細茶 hsi ch'a

Green tea 青茶 ch'ing ch'a

Tea 茶

(black-) 紅茶 hung ch'a

(green-) 青茶 ch'ing ch'a, 緑茶 lu ch'a

Bohea tea, Pekoe などはなし。

以上のヨーロッパ人の英華辞典類では、「緑茶」は Morison から見れるが、「紅茶」は

1869年の Edkins までは見られず、それまでは「黒茶」あるいは製品名で呼ばれていたことがわかる。ただし、Edkins の辞典は上海語辞典であり、Doolittle でも Vol. 1 では「紅茶」を採用せずに「黒茶」を使い、Vol. II-Part III の分類語彙で採用しているところから考えると、1900年に入るまでは、あくまでも貿易用 (Edkins は上海税関の人) あるいは専門職用の「限られた」言葉であったと見たほうがよい。

また、「青茶」の概念が混乱している。

6. 3 報刊類での訳語

(1) 東西洋考毎月統紀傳 (1833—35, 1837—38)

Gutzlaff によって広東 (後期はシンガポール) で創刊された『東西洋考毎月統紀傳』には「茶」に関する記事が「省城洋商與各國遠商相交買賣各貨現時市價」「新聞」「貿易論」の欄にしばしば登場する。ただし、Black tea に関する言葉としては、「大茶」「工夫茶」「揀焙」(=Campoi)「小種」「白毫」「武夷茶」が使われている。そのうち、「武夷茶」は次のような使われ方がされているところからして、「緑茶」に対する「紅茶」の総称と見ることができる。「各項武夷茶」とはすなわち「各種類の紅茶」という意味になる。これは先の『中国名茶志』の記載と同様であり、この『東西洋考毎月統紀傳』の発行されていた時期、つまり1838年前後までは、「紅茶」はまだ出現していないか、それほど一般的な言葉ではなかったといえることができる。

冰糖三十萬員，各項武夷茶一千萬員，緑茶各項四百二十九萬員。以上添雜貨各項共計出港之貨價三千零七十二萬員。(道光戊戌=1838年五月)

(2) Chinese Repository (1832—53)

Description of the Tea plant (VIII July 1839)

The native name of tea in both China and Japan is *che*, changed into *tay* in the principal dialects of Fuhkeen, from one or the other of which sources the term has found its way, with little or no alteration, into all the leading languages of the world. (133p)

Writers endeavor to account for some of these synonyms, by saying, that the first picking was called 茶 cha, the second 茗 ming, and the third 薺 chuen, which last is still another term of it. (133p)

Its botanical name is *Thea*, (133p)

Black teas are sometimes known by the general term of hih cha 黒茶 or 'black

tea'; a more common designation, however, is 夷 (or 彝) 茶 E cha, which is a contraction of Woee, the name of hills. Bohea, as we have already seen, is a corruption of the name of the Woee hills, derived through the local dialect, and is not known to the Chinese as term for a quality. They call ta cha 大茶 or 'large tea', which may also be rendered 'large sized', or perhaps, 'coarse tea'.
(150p)

(3) 遐邇貫珍 (1853—56)

これは Medhurst を中心に香港で創刊された新聞であるが、「茶」に関する記事は何か所かあるが「茶」一般について述べたもので「武夷山茶」が一カ所用いられているが、「紅茶」は出てこない。

(4) 六合叢談 (1857—58)

Alexander Wylie (偉烈亞力) によって上海で創刊されたこの華字月刊紙に「紅茶」はおそらく中国語の文献としては最初に登場してくる。それは、各号の末に付けられた「出口茶價單」に現れ、明らかに「緑茶」に対応する「紅茶」の総称として使われている。これは、この新聞の性格、また上海という貿易の盛んな土地柄を反映したものであろう。

出口茶價單

工夫茶 在滬邑甚少省貿易不通以致價值稍昂

紅茶

粗河口 每担價銀十二兩至十六兩

界山界首 每担價銀十六兩至十八兩

寧州新茶 每担價銀十七兩至二十五兩

緑茶

雨前 每担價銀 八兩至十兩

芽前 每担價銀 十一兩至十四兩

…………… (第壹號)

上海十月下旬至十一月下旬出口之貨價單

紅茶

白毫 下號四十五兩至六十五兩

小種 三十四兩至四十兩

工夫 里山河口雜葉 十六至三十兩

寧州湖南湖北 二三號二十六至四十兩

緑茶

…………… (第拾三號)

6. 4 英語学習書での訳語

(1) Robert Thom (1843)

華英通用雑話 上巻

Chinese and English Vocabulary Part First

Canton 10th August, 1843 の書き込みあり

Tea 茶葉

black tea 黒茶即武彝茶

green tea 緑茶即安徽茶 (6 裏)

(2) 増訂華英通語 (1860)

福澤諭吉 萬延元年 (1860) 快堂蔵板

ただし、中身は中国人 (広東人) の子卿の著した「華英通語」の翻刻であり、原書の「華英通語」はその序文から1855年前後に出版されたものである。従って、ここに収められた語彙は1850年代の語彙を反映したものと言える。

茶葉類

Black tea 黒茶

Green tea 緑茶

Pecco 白毫

Orange pecco 上香

Hungmei 紅梅

Souchong 小種

Pouchong 包種

Congo 工夫…………… (26葉表)

(3) 英話註解 (1881)

馮對山ほか編。この書も1860年の序があり、実際には1860年代の語彙を反映したものと言える。原書の『英話』に寧波音の注音をつけたもの。

Black tea 紅茶

Green tea 緑茶

Souchong 小種

Pekoe 白毫 (51葉裏)

(4) 英語集全 (1862)

唐廷樞 緯經堂 (広東) 同治元年六月

茶 Ch'a—tea

白毫 Pecco

上香 Orange Pecco

紅茶 Hung ch'a—Black tea

.....

緑茶 Luk ch'a—Green tea (67葉表)

(5) Hirth (1885)

新關文件録

Text Book of Documentary Chinese with a Vocabulary,

For the Special Use of the Chinese Customs Service.

Edited by F. Hirth, Ph. D.,

Published by Order of the Inspector General of Customs. Shanghai

通商各關土貨出洋花色總数

一千八百八十二年

紅茶

緑茶(23p)

* 『通商約章類纂』(光緒12)の「税則」などでは「茶」「茶葉」「粗茶葉」「児茶」「磚茶」などではあるが「紅茶」「緑茶」はなし。

(6) 増廣英字指南 (1901?)

楊勳 商務印書館 (初版は1879)

(飲食)

茶 Tea

濃茶 Strong tea

淡茶 Weak tea

紅茶 Black tea

緑茶 Green tea

「英語学習書」は、まさに貿易や商人のために編集されたもので、いわゆる「実用書」とい

うことであるが、ここでも「紅茶」は1855年あたりのものには出現せずに、1860年代以降のもの、しかも広東語系のものに最初に現れており、それ以前は「黒茶」である。

6. 5 中国人の手になる英華辞書類での訳語

6. 5. 1 鄺其照の『華英字典（集成）』

中国人の手になる英華字典の最初は鄺其照のものであるが、各版の「茶」の訳語の状況は次の通りである。

〈1875版〉

Tea 茶, 茶葉

Bohea tea 武彝茶

Congou tea 工夫茶

green tea, black tea なし

〈1887年版〉

Tea 茶, 茶葉

項目増える (strong tea, weak tea, Tea-merchant, etc.)

Bohea tea 武彝茶

Congou tea 工夫茶

green tea, black tea なし

〈1902年版〉

1887年版に同じ。ただし、「雑字撮要」の「茶類」には以下の項目あり。

烏龍 Oolong

小種 Souchong

包種 Powchong

武彝茶 Bohea

上香 Orange pakoe (ママ)

工夫茶 Congou

粗工夫茶 Common congou

細工夫茶 Fine congou

白毫, 君眉 Pekoe

紫毫 Inferior pekoe

紅梅 Hung muey

紅茶 Black tea

緑茶, 大茶 Green tea

……………(565p)

6. 5. 2 商務印書館系列の英華辞典

(1) 商務書館華英字典 (1902)

鄭其照の字典を元に作られたもので、初版は1899年。

Tea 茶, 茶葉 その他の項目も鄭其照の1902年版とほぼ同じ。

Bohea tea 武彝茶

Congou tea 工夫茶, 紅茶

(2) 商務書館華英音韻字典集成 (1901)

Commercial Press English and Chinese Pronouncing Dictionary

Lobsheid を元にする。

Bohea tea, A sort of black tea, 武彝茶, 武夷茶

Congo, Congou, A species of black tea from China, 工夫茶

Green-tea, A commercial variety of tea of several kinds, 淡茶, 緑茶

Pekoe, A scented black tea, 香紅茶

Tea 茶, 茶葉, 茗

(3) 商務書館袖珍華英字典 (1904)

Commercial Press English and Chinese Pronouncing Pocket Dictionary

Bohea tea, 武彝茶, 武夷茶

Congo, Congou, 工夫茶

Pekoe, 香紅茶

Tea 茶, 茶葉, 茗, 下午茶點

(4) 英華大辞典 (1908)

An English and Chinese Standard Dictionary

顔惠慶

Bohea tea, An inferior sort of black tea, 武彝茶, 武夷茶

Congo, A specied of black tea from China, 紅茶名

Green-tea, A commercial variety of tea of several kinds, 緑茶, 青茶

Pekoe, A scented black tea, 香紅茶

Tea,

1. The dried leaves of the tea tree, the produce of China and the East, 茶葉 ;
as, green tea, (植) 緑茶, 青茶 ; black tea, 紅茶……
2. …… , strong tea, 濃茶 ; weak tea, 淡茶……

(5) 新訂英漢辭典 (1911)

An Abridged English and Chinese Dictionary

「英華大辭典」の簡略改訂版

Bohea tea, 武彝茶, 武夷茶

Congo, 紅茶名

Green tea, (植) 淡茶, 緑茶, 青茶

Pekoe, 香紅茶

Tea, 茶葉 : 茶 : 茗 : 午後茶 : 下午飲茗 : 下午小食 : 夜膳 : 晚食

(6) 増廣商務印書館英華新字典 (1914)

Commercial Press English and Chinese Pronouncing Condensed Dictionary

Congo, Congou, 工夫茶, 紅茶名

Tea, 茶, 茶葉, 茗, 晚間茶點

Pekoe, 香紅茶

(7) 漢英新辭典 (1911)

A New Chinese-English Dictionary

紅茶 Black tea

(8) 綜合英漢大辭典 (1927)

A Comprehensive English-Chinese Dictionary

Bohea, 中國武彝産之紅茶

Congou, 工夫茶 (中國産之紅茶, 係第三次所摘者, 製時頗工夫, 故名, 本爲 Kung-fu 音之訛

Pekoe, 香紅茶

Tea, 茶 : (a)茶樹 ; (b)茶葉 ; (c)茶葉和沸水泡成之飲料。 Black tea, 紅茶。 Green tea, 緑茶。 Brick tea-tile tea, 磚茶

中国人の手になる英華辞書は、鄭其照を除いてはいずれも、1900年以降のものであるが、顔惠慶(1908)以降にはほぼ「紅茶」が定着したとすることができそうである。ただし、見出し語としては採用しておらず、Teaの小見出しで現れているのが特徴であり、中国人にとって

「紅茶」は一般的ではないことも見て取ることができる。「黒茶」は全く現れず、1900年代にはすでに消滅したか、そもそも、「黒茶」は中国人にとっては好ましくない語感があり、この語はヨーロッパ人の「直訳」と考えた方がよいかも知れない。また、「工夫茶＝紅茶」としてることなどは、「武夷茶」と「工夫茶」の力関係を現しているともできそうである。

7. ま と め

以上、「紅茶」という言葉について述べてきたが、ヨーロッパにおいては Black tea は Gree tea に対する言葉として、それが両方入った時期（おそらくは1700年のはじめ）には存在していた。この「Black tea」に対応する中国語としては、当初は「武夷（武彝）茶」がその総称として用いられた（1838年頃まで）が、1840年代には、直訳の「黒茶」が登場し、さらには1844年頃には「紅茶」という言葉が出現してくることになる。「黒茶」は恐らくは広東にきたヨーロッパ人が作った言葉であり、ヨーロッパ人にとってはあくまでも「Black tea」には「黒」のイメージがつきまどっていた（そのことは、先の Fortune の“our common black tea”という表現や下記の『官話指南』フランス語版の訳註からも肯ける）のに対し、「紅茶」は中国人（広東人）の造語であり、しかも「仲間内」の限られた範囲での用語であった。つまり、前述の矢沢氏の見解はほぼ妥当なものと言うことができるのである。それは、「英語会話集」「語彙集」といった「実用書」や上海という貿易の盛んな土地で出版された月刊紙や辞書類には比較的早くそれが現れる（1857年以降）のに対し、中国人の手になる英華辞書の類には1900年代に入らないと現れないところにも表れている。また、1920年代でも見出し語にはなりにくいというのは、中国人にとっては「紅茶」がメインの飲料ではないことを示すものであろう。

なお、「紅茶」の訳語の各辞典類での現れ方を見ていくと、それぞれの間の影響関係もおぼろげながら浮かんでくる。

ところで、日本語での「紅茶」という言葉はおそらくは『六合叢談』から入ったものと思われる、明治二十（1887）年の『通商報告』にはすでに「紅茶」が一般的に使われており、二葉亭四迷の『浮雲』などにも登場してくるが、日本語に関しては今後の課題としておきたい。

官話指南（1882）

呉啓太、鄭永邦

使令通話 第二章

來，啗，給先生沏茶，老爺是要沏甚麼茶，是嘎啡，是紅茶

兩様兒都不用，沏日本茶罷，

官話指南（フランス語版1906）

BOUSSOLE Du Language Mandarin

Traduite et Annotée par Le Pere Henri Boucher, S. J.

Chang-hai Imprimerie de la Mission Catholique

Orphelinat de Tou-Se-Wei

紅茶 Hong-Tch'a : thé rouge, ce que nous appelons thé noir（第三卷 使令通話
第二章の注 251p=紅茶はつまり我々が言うところの黒茶）

1997. 12. 18.

〈付記〉

本稿は、関西大学東西学術研究所研究例会（1997.12.17）で口頭発表したものを元に加筆修正したものである。なお、同研究所研究員の松浦章教授には、本稿を纏めるに際して多くの資料をご教示頂いた。ここに記して感謝の意を表したい。

〈主要参考文献〉

角山栄1980『茶の文化史』中央公論社

矢沢利彦1989『東西お茶交流考』東方書店

—— 1997『グリーン・ティーとブラック・ティー』汲古書院

K. N. Chaudhuri, 1978, *The Trading World of Asia and the English East India Company, 1660—1760*, Cambridge

Robert Fortune, 1847, *Three Years' Wanderings in the Northern Provinces of China, Including a Visit to the Tea, Silk, and Cotton countries: with an Account of the Agriculture and Horticulture of the Chinese, New Plants, etc.* London